

スクールインターンシップで学んだこと

商学部 商学科 3 年次生

私が、スクールインターンシップに参加した理由は、学校現場の実情や、授業構成、生徒との接し方など、大学の講義だけでは学びにくいことを学ぶためでした。その結果、教師になる上で求められる力を知り、自分の成長に活かしたいと考えていました。

活動内容は、週に1~3日、主に授業見学で、体育祭の事前準備のお手伝いや学校独自の行事などにも参加させていただきました。授業では、当たり前のようにiPadやPowerPointで授業が行われていました。私が学生時代の頃は、これほどICT技術の導入が進んでいなかったもので、数年で教育が大きく変わることを実感し、ICT技術を使いこなせることが求められるようになってきていることを学びました。また、先生が生徒にとって身近な例を導入部分で取り入れていたり、生徒同士で交流する時間が多く設けられていたりしていて、授業を面白くわかりやすくする工夫がなされていることを学ぶこともできました。

活動中に苦労したことは、生徒と話す機会が特に最初の頃は少なく、また私自身も緊張してあまり話せなかったことです。しかし、活動に参加するにつれて、生徒に話しかけることに慣れ、まずは不安でも積極的にコミュニケーションを取ろうとすることが大切なのだ気づきました。活動中に嬉しかったことは先生から直接レクチャーを受け、授業で工夫していることや授業作りのためのおすすめの本、教育実習の心構えなどを教えていただいたことです。これらは、来年の教育実習や実際に教員になった後も役立つため、良い経験ができたと思います。また、生徒に挨拶すると、元気よく挨拶を返してくれたことや、生徒と協力して体育祭の準備をして交流できたのが貴重な体験でした。

このように、スクールインターンシップの意義は、理論と実践をつなぐことで、自分の足りない力を知ることだと思います。私の場合は教科の専門知識に加えて、普段から明るく元気にコミュニケーションできる力や、想定外の事態に臨機応変な対応ができる力が必要だと思いました。このようにスクールインターンシップで学校現場に実際に足を運ぶことでしか、学べないことがたくさんあるので、少しでも迷っている方がいればぜひスクールインターンシップに参加されることをお勧めしたいと思います。